

平成 27 年度 日野市立図書館の
運営の状況に関する評価書
(平成 26 年度事業)
くらしの中に図書館を
—市民に役立ち、共に歩む図書館—

平成 27 年 10 月
日野市立図書館

目 次

1	はじめに	1
2	評価の目的	1
3	図書館の現状	1
	（1）施設	1
	（2）組織・職員	2
	（3）主な業務	2
4	評価の方法	2
5	評価の対象事業	2
6	評価の結果	3
7	評価表	
	乳幼児・小中学生サービス	4
	青少年サービス	4
	学校支援	4
	成人・高齢者サービス	4
	障害者サービス	5
	各館での取り組み	5
	資料の選択・収集	6
	予約・リクエスト・相互貸借	7
	レファレンスサービス	7
	地域・行政資料（市政図書室）	7
参考資料	サービス実績	8
	日野市立図書館の運営状況の評価実施要綱	9
	図書館協議会委員名簿	10

1 はじめに

平成 20 年 6 月に「図書館法」が改正され、図書館の運営の状況に関する評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めること、また、図書館奉仕に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該図書館の運営に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならないこととされました。

そのため、図書館では、平成 21 年 3 月 31 日に、「日野市立図書館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、平成 21 年度から図書館の運営状況に関する評価を開始しました。

2 評価の目的

この評価は、図書館の運営状況に関する情報を積極的に提供することにより、市民・利用者やその他の関係者との理解を深め、連携及び協力を推進し、市民・利用者に信頼される効果的な図書館運営の推進に資することを目的に行います。

この目的遂行のため、図書館は毎年 1 回、運営状況について評価を行い、その評価に関する報告書を毎年作成し、教育委員会に提出するとともに、市民に公表することとしています。その、評価結果に基づき図書館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めていきます。

3 図書館の現状

(1) 施設

施設の名称	延べ床面積	現館の開館日	所在地	蔵書規模
中央図書館	2,220 m ²	昭和 48. 4. 28	豊田 2-49-2	253 千冊
移動図書館	1 台 (20 駐車場)	昭和 40. 9. 21	同上	28 千冊
高幡図書館	1,358 m ²	昭和 55. 5. 11	三沢 4-1-12	88 千冊
日野図書館	422 m ²	昭和 55. 5. 18	日野本町 7-5-14	51 千冊
多摩平図書館	856 m ²	平成 16. 4. 1	多摩平 2-9 多摩平の森ふれあい館 1 階	105 千冊
平山図書館	412 m ²	平成 20. 4. 5	平山 5-18-2 平山季重ふれあい館 1 階	50 千冊
市政図書室	140 m ²	昭和 52. 12. 1	神明 1-12-1 日野市役所 1 階	41 千冊
百草図書館	759 m ²	平成 2. 11. 16	百草 204-1 ガーデンビュー石神 D2 階	68 千冊

- (2) 組織・職員 ※平成 27 年 3 月 31 日現在
1 課 3 係 (庶務・業務・奉仕)、6 分館
正規職員 34 人 (うち司書 24 人)、
再任用職員 4 人 (うち司書 2 人)
嘱託職員・臨時職員 (週 30 時間換算) 33.9 人

(3) 主な業務

- ・ 図書館資料の収集、整理及び保存
- ・ 個人貸出、団体貸出
- ・ 読書案内及び読書相談
- ・ レファレンス
- ・ 読書会、研究会、講習会、展示会等の主催及び奨励
- ・ 館報その他の読書資料の発行及び頒布
- ・ 図書館資料の図書館間相互貸借
- ・ 市内の学校への資料提供と協力
- ・ 地方行政資料の収集及び提供

4 評価の方法

評価の対象事業について、図書館の活動実績・自己評価を、図書館協議会に報告し、事業の説明会を実施しました。それに対し図書館協議会委員の意見をいただき、評価を行いました。

5 評価の対象事業

「第 2 次日野市立図書館基本計画」の基本方針の下の重点的な取り組みから抽出した、下記 10 事業について評価を行いました。

○基本方針 すべての市民が利用しやすい図書館をめざします

【乳幼児・小中学生サービス】

【青少年サービス】

【学校支援】

【成人・高齢者サービス】

【障害者サービス】

【各館での取り組み】

- ・ 中央図書館
- ・ 高幡図書館
- ・ 日野図書館

- ・多摩平図書館
- ・平山図書館
- ・百草図書館
- ・移動図書館

○基本方針 市民が求める本や資料・情報を収集・保存・提供します

【資料の選択・収集】

【予約・リクエスト・相互貸借】

○基本方針 市民と資料・情報とを結びつけ、市民の暮らしを支援します

【レファレンスサービス】

○基本方針 地域・行政資料を収集・保存・提供し、日野市の歴史を未来に伝えます

【地域・行政資料（市政図書室）】

6 評価の結果

図書館協議会の総括的意見は次のとおりです。

『平成26年度の図書館事業の運営は、厳しい財政状況の中、可能な限りのサービスを展開している。特に乳幼児を対象とした新たな事業の実施は、将来の図書館利用者の拡大に通じる事業であり高く評価する。その他、障害者サービス、学校支援、レファレンスサービスなど、いずれの事業についても一定の成果は見られる。

今後も限られた資源を有効に活用し、市民の要望に応えるべく創意工夫を重ね努力されたい。また、各事業の客観的な分析・検証を続け、新たな利用者の掘り起こしに向けた活動の発展や深化に取り組んで欲しい。

社会教育行政、生涯学習行政の中核的施設である図書館が、円滑に運営できるよう、予算的・人的措置は厚くとられるべきである。現下の財政状況の中では厳しいことは理解できるが、可能な限り予算的・人的措置がとられるように大いに期待したい。』

自己評価についても概ね成果をあげることができたとしています。なかでも、多摩平図書館と平山図書館で試行実施した、乳幼児連れの方が気軽に来館できる時間「ひよこタイム」は、保護者が子どもに絵本を読み聞かせたり、子どもと一緒に、ゆっくり子どもの本や保護者自身の本選びができる環境整備の足掛かりとして、翌年度以降も成果が期待できます。また、学校支援の取り組みでは、小中学校の学級文庫を補うために、本をセットで配本する「本の森学級文庫」を開始して2年目となりますが、先生方に非常に喜ばれています。子どもたちの一番身近なところに本があり、親しい先生や友だちから面白い本をすすめてもらうこともでき、子どもが本に親しめる環境整備として効果的な取り組み

と考えます。今年度は特別支援学級まで拡大しました。今後は本を増やして学級単位に行き渡らせることや中学校への拡大を目指します。また、テーマによる図書の展示は、未知の本との出会いが有ることを願い行っているものですが、来館者は普段は見過ごしている本や書庫にある本を再発見することができ、よく手に取られています。職員にとっても蔵書を知り選書にも生かせる取組みです。電子情報ではオンラインデータベースの拡充や国立国会図書館デジタルコレクションの提供を始めました。今後多くの利用がされるよう、レファレンスサービスの周知とともに、PR等を進めていく必要があります。全般的に図書館のサービスが市民の方に十分に知られていない面があるとされ、引き続き情報発信やPRに努めていきます。また、他部署・機関や市民などとの連携や職員の育成、収蔵スペースの確保等の課題が残りました。

今回の評価や意見を受けて、次年度以降も取り組みを継続・充実させるとともに、課題の解決や改善に努め、「第2次日野市立図書館基本計画」の実現を進めていきます。

各事業における図書館の自己評価及び図書館協議会からいただいた評価・意見は、5ページ以降の評価表のとおりです。

<p>★図書館の目標</p> <p>くらしの中に図書館を —市民に役立ち、共に歩む図書館—</p>	<p>★重点施策の概要</p> <p>(1) 子ども読書活動の推進 子どもが本に親しむ環境を整備し、乳幼児から青少年までの読書活動を推進していく。子ども関連部署と連携し、本に親しむ環境整備に向け取り組んでいく。 ○保育園、幼稚園等の連携による講座等の実施 ○学校図書館支援充実 ・読み物の本を小学校全校に配本 ・調べ物資料利用について利用向上に向けた周知 ・学校図書館システムの検証</p> <p>(2) 図書館利用促進 本に親しむための取組みを行い、図書館利用の促進に繋げ多くの市民の本に親しむ環境整備を図る。 ・各図書館でのお話会の充実 ・読み聞かせ講座や読書会の実施 ・ヤングスタッフによる本の紹介、展示、パンフレット作成 ・移動図書館「ひまわり号」による一般貸出、団体貸出 ・図書館内本の展示の充実 ・館報「ひろば」の充実</p> <p>(3) 日野宿発見隊事業の推進 市民の方と協働で、地域の歴史・文化を掘り起し、記録・保存と活用を進め、住民の地域への愛着を深めると共に未来に伝える。 ・まちかど写真館、交流館写真館の開催 ・まちかど看板制作 ・夏祭りほか</p> <p>(4) 市刊行物の納本制度の実施 市政図書室として、地域・行政資料センターの役割を更に充実していくため、市刊行物の収集を確実にやっていく。 ・市刊行物収集の内規を作成する ・庁内に周知し、市刊行物の収集を徹底していく</p>
<p>★目指す図書館像（ビジョン）</p> <p>①すべての市民が利用しやすい図書館をめざします。</p> <p>②市民が求める本や資料・情報を収集・保存・提供します。</p> <p>③市民と資料・情報とを結びつけ、市民の暮らしを支援します。</p> <p>④地域・行政資料を収集・保存・提供し、日野市の歴史を未来に伝えます。</p> <p>⑤読みたい、調べたい、学びたいという市民を応援します。</p> <p>⑥資料や情報を介して、地域の人と人との交流を促します。</p>	

主要事業番号	取組事業	取組内容	事業の成果・評価	図書館協議会の意見	結果の分析と改善策
(1)	乳幼児・小中学生サービス	乳幼児やその保護者へのサービスを拡充し、ひよこの時間（仮）を実施する。	平成26年12月から多摩平図書館と平山図書館で乳幼児連れ親子が気軽に来館できる時間「ひよこタイム」を設定し、同時間内にはおはなし会も開催した。平山図書館ではあらたに乳幼児向けおはなし会を4回実施、親子連れのべ60名の参加があった。多摩平図書館でも、乳幼児向け絵本コーナーを設置し、広報、周知に努め、周りの理解を求めながら進めた結果、少しずつ乳幼児連れ親子の来館が増えてきている。	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが読書に親しむ活動は大変重要。 ・新たな取り組みで、利用が増えたことはとてもよかった。 ・乳幼児向けサービスは着実な成果が見えて喜ばしい。 ・平山図書館では「仕切り」と言う面で改善を必要としているようだが、年齢にもよるが、公共マナーを教え、共存すると言う観点も必要である。 ・他の部署・機関と連携することで日野市の子育て支援政策のひとつとして位置づける。 ・「赤ちゃん」が集まる場所に出かけてサービスを展開する。 ・図書館におけるストーリーテリング・素語りの充実が不可欠である。 ・活動している市民との連携について、検討をすすめてはどうか。 	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児とその保護者に向けたサービスは、一定の成果があった。 ・他部署との連携は必須である。 ・図書館の公共マナーも教えつつ、親子連れで利用しやすい環境を整える必要がある。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡充するためには、様々な連携が必要になる。今後、他部署、市民などどのように連携していくか検討することが課題である。 ・図書館内だけでなく、児童館など乳幼児連れ親子がいる場所へ出向いていくことも視野に入れていく。

(2)	青少年サービス	<p>青少年の読書活動を推進するために、市内の高校生・大学生からなる「ヤングスタッフ」が薦める本の紹介イベント等を実施し、本の紹介や読書の楽しさを同世代に向けて発信する。</p>	<p>子どもの読書活動推進イベントで、ヤングスタッフが同世代に向けてお薦めの本を紹介したり、絵本作りワークショップを実施した。このような活動を通し、読書の楽しさを伝え、関心を高めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三沢中学校でブックトーク（一定のテーマで複数の本を聞き手に紹介する）を1学級実施。 ・実践女子大学常盤祭でお薦めの本の展示。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生がこういう形で図書館にかかわるのはとてもよい。中学校でのブックトークの拡大を望む。 ・ヤングスタッフ事業を高く評価するが、実施して終わりではなく、本来のねらいを確認し、その結果をきちんと分析・評価し活動の発展・深化をはかる必要がある。 ・ヤングスタッフの活動に限りがあるのが残念である。 ・図書館側から、中・高・大学生向けの働きかけも、もっと考えられないか。 ・大学生の参画については、日野市内の大学に限らず、帝京大学や中央大学など市に近い大学にも働きかけていく余地がある。 ・青少年用資料の充実が望まれるので、それについても検討・評価が必要である。 	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントや中学校への訪問により、読書の楽しさを伝えられたが、ヤングスタッフは高校生・大学生のため、受験等で活動に制約があり、思うような活動ができなかった。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤングスタッフの人員確保に向けて図書館側からの働きかけ等の方策を検討する。
(1)	学校支援	<p>小中学校の学級文庫を補うために、本をセットで配本する「本の森学級文庫」の拡大・充実を目指す。合わせて学校図書館や教諭との連携強化を図る。</p>	<p>平成25年度より小学校の各学年への貸出しを実施し、平成26年度には特別支援学級への貸出しも行った。</p> <p>司書教諭連絡会に図書館職員も出席し、教員と関係が築けるようにしているが、日野第三小学校図書室の蔵書構成についての相談も受けた。</p> <p>事業対象の拡大と強化が図れた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実質的な「学校図書館支援・連携」が図れるよう、図書館からの発信が大切である。 ・連絡会への学校図書館職員の出席は重要なこと、今後もぜひ職員の相談に応じられるような体制を。 ・学校の図書や団体貸出など、学校図書館へのバックアップは評価される。今後も充実していく必要がある。 ・「本の森学級文庫」については、各小学校の各学年で教えている事柄に関連した内容の本も混ぜ込むことで、教科書には明記されていない事柄をより子供たちに知ってもらい、勉強への興味をさらに広げるサポートができるのではないだろうか。 ・学校図書館について、国の平成24年度から平成28年度までの学校図書館整備施策（地方交付税措置）を活用するなどして、予算の確保や人員配置の充足がされるよう、公共図書館としても働きかけをしていくべきである。 ・学校図書館の使命・目的は「教育課程の展開に寄与する」ことであり、日々の学習活動に即した蔵書構成が行われるべき。利用者である児童生徒、教員の視点での蔵書構成が重要である。 	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援は、学校図書館のサポートと教師への支援、クラスへの配本などがある。それぞれの利点を見極めた上で、的確な支援を進めていく必要があり、学校図書館の自立を妨げるものとなってはならない。そのことを踏まえた上で、授業をサポートする資料や学級文庫用の読み物の搬送などを進めていくことが重要である。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師と学校図書館をもっと強く結びつけられるよう、学校の職員室のパソコンから学校図書館と公共図書館の蔵書を連携して検索できるシステムの実現を、次期システムの更新までの課題とする。 ・学校図書館への支援や教諭との連携に加え、指導主事との連携も推進していく。
(2)	成人・高齢者サービス	<p>各館が時宜に合ったテーマや市の取り組みと連動した図書展示をさらに充実させ、蔵書の活用を図るとともに、利用者と本との新たな出会いの機会を創出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの人に利用してもらえよう、展示内容を情報発信（PR）する。 	<p>市の各担当課事業との連携により、各館持ち回りにて、食育・子育て支援・平和・環境・自殺防止をテーマにした展示を行い、市民への情報提供を行うことができた。また、各館担当による次のような展示を行い、その情報をHPや館報ひろばにて紹介することで、市民に広く本を紹介し、手に取ってもらえるきっかけを作ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節に応じた展示（花、夏休み、クリスマス、お正月、干支、ひなまつりなど） ・関心を集めているテーマによる展示（断捨離、認知症、仕事紹介など） ・独自のテーマによる展示（嘘など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各館の取組みにも共通することだが、市民の関心、世の中の動きにこたえるテーマを選びとり、多様な切り口からの資料をそろえることは、図書館員の力の見せどころである。 ・展示コーナーの発信はテーマに沿った適正な場所にも設置を希む。 ・テーマ別の展示は大変良い活動である。「ひろば」などでの情報発信の推進を望む。 ・特集コーナーは各担当者の工夫が見え、市民からも好評だったようで今後も持続して欲しい。 ・テーマ展示にとどまるのではなく、集めた資料を活用してブックトークなどに発展させることはいかがだろうか。 ・こうした取り組みを成人・高齢者向けのみならず、青少年や乳幼児向けにも広げていく。 ・高齢者を対象として、「ヤングスタッフ事業」のような参加型プログラムを考えられないだろうか。 	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の事業に関連した展示、季節や市民の関心に応じた展示、多様な切り口による展示を行うことで、図書館資料を市民に活用してもらえようきっかけを作ることができた。 ・テーマ展示の組み立てや、蔵書リスト作成を行うことは、図書館員としても、蔵書を知るよいチャンスになっている。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ展示を来館のきっかけにもしてもらえよう、「ひろば」や図書館ホームページでの情報発信を推進することが課題である。

(2)	障害者サービス	<p>障害者サービスを必要とする全ての方が、サービスを利用できるように広報を行う。また、現在の利用者がより多くの資料と出会う工夫を行う。</p>	<p>障害者サービスの内容をわかりやすくまとめたリーフレットを図書館各館で配布できたが、配布の仕方にもうひと工夫が必要であった。全国で製作された録音雑誌・点字雑誌一覧を利用者に作成・配布することにより、雑誌の利用率を向上させた。また、利用者の求める図書情報を積極的に口頭等で紹介し、特にDAISY図書の貸出を増加させた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足、予算不足という厳しい制約のなか、可能な限りのサービスを展開している。 ・担当者がサービスの現状をきちんと数字で把握し、課題も明確になっているので、今後の活動に期待したい。 ・支援する側の重要性、必要性を感じる。 ・日野市の図書館の障害者サービスのレベルの高さを評価する。 ・雑誌利用向上は評価できる活動で、さらに未利用の方への働きかけを望む。 ・サービスが一つの地域にとどまっている現状が解決できていない。 ・障害者サービスを日野市内だけで揃えるのは限界にきているように思われる。周辺の市町とも連携した障害者向けサービスの充実を図れないだろうか。(点字資料の融通や音読者の養成などの面で) 	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宅配サービスの地域格差解消が課題である。 ・他自治体とは資料の相互貸借で連携を強化している。 ・点訳者が高齢化のため減少している。日野市だけでは安定した提供が難しくなっている。 ・音訳者養成プログラムは、自治体によりばらつきがある。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「宅配ボランティア委員会」の活動を活発化し、ボランティアを増員し、職員による宅配をボランティアによる宅配に移行したい。 ・点訳者連絡会を定期的で開催し、安定した点訳サービスの運用について今後も検討していく。 ・他の自治体の点訳グループに協力を求めることも視野に入れていく。 ・日野市独自の質の高い音訳の提供を目指していく。
(2)	各館での取り組み (中央図書館)	<p>書架表示を充実することで、利用者が館内で資料を探しやすくなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書架表示を見直し、増設やレイアウトの刷新を行う。 	<p>書架の中でも、特に利用者の視線が届きにくい高書架について書架表示に工夫をした。「〇〇全集」等の資料名表示に加え、請求記号の表示を行ったことにより、利用者が検索端末で確認した情報からも、資料を探しやすくなることになった。</p> <p>また、小説・エッセイ・文庫本の請求記号変更に伴った書架表示変更により、利用者が資料を探す上での混乱がないよう対応した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高書架のシリーズ、全集類の書名・分類記号の表示は非常に有効。通常なら書庫に入って利用者は目で見えない資料の背を読むことができるだけでも意義がある。また、6段目の書架表示を下向けにつける、書架側板の表示も一律にNDCを表示するのではなく医学490のところは更に展開した表示にする、全館の書架配置図は通常は入口近くに一枚掲示だが、あちこちに掲示するなど、随所に、手間をかけた配慮がある。 ・利用者が自分で資料にたどりつくために、親切な書架表示は必須である。高書架の下向きの全集名見出しなど、工夫の跡が見られる。 ・2Fレファレンス室へのつながり、案内も工夫してもっとアピールしてほしい。 ・今後も知恵を出して活動してほしい。 ・図書館に関心ある方や関連する団体など中央図書館がリードして組織化・ネットワーク化の検討を願う。 	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の視線が届きにくい高書架について、書架表示に工夫をすることで、利用者が資料を探しやすくなることになった。 ・資料の増加に伴い、より詳細な表示が必要になっている。今後も、蔵書の構成を見ながら、表示の工夫を続けていく必要がある。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央図書館は、2階にレファレンス室を設けており、そちらにも調べものの用の資料が置かれていることを適切に案内することも課題である。
(2)	各館での取り組み (高幡図書館)	<p>施設の老朽化や備品の経年変化による劣化が進む中、図書館利用者が気持ちよく利用できる環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書会室・おはなしの部屋の雨漏りの解消 ・1階開架室の雨漏りの解消 ・冷暖房設備の更新(最終年度) 	<p>一般市民の利用する部分について、雨漏りはほぼ解消させることができた。3か年計画で進めてきた冷暖房設備の更新も完了した。</p> <p>雨漏りの解消により、特に読書会室の利用者には安心して利用してもらえるようになった。また、冷暖房の効率もよくなり、前年度よりも快適な利用環境を整えることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・快適な環境が整い利用者の増加を期待したい。 ・施設の改善が進んでよかった。幼児や保護者の方へ、部屋の利用などのPRを望む。 ・施設の次なる課題としては、2階トイレの使いにくさが気にかかる。 ・図書館として、中・長期的に施設はどうあるべきかといったビジョンは持つべき。 ・利用者サービスの面での目標設定も必要ではないか。 	<p>【結果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の快適な利用環境が整い、利用者の満足度はあがったと感じる。他にも改善すべき箇所は多々あるので、今後も継続して快適な環境を整えるよう努力していく必要がある。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中・長期的なビジョンでの施設の環境改善計画を立てていく必要がある。

(3)	各館での取り組み (日野図書館)	地域住民と共同で取り組んでいる日野宿発見隊事業をこれまで以上に充実させる。	計画していた事業はすべて実施することができた。特に、本年は富岡製糸場が世界文化遺産になったことを受け、「日野にも残る産業遺産」として仲田の森蚕糸公園内に残る施設の見学会(共催)を開催した。市内外からの多数の参加者をえて大変好評だった。地元のお宝を再発見し地域の活性化につなげようとする日野宿発見隊事業は着実な歩みを進めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型の図書館としての役割を見事に果たしていて感服。人手がないなかで、さらに地域の小中学校との連携事業にも取り組むなど見事である。 ・市民による地域の再発見という事業の中で図書館が大きな役割を果たしていることは、大変喜ばしい。 ・小学校での授業と向かい合っていて、子供たちの図書館利用に期待したい。 ・地域住民との結びつきを強める活動、高く評価する。 ・日野宿発見隊の活動はユニーク。日野CATVを利用した情報発信の検討を望む。 ・日野図書館の活動はひまわり号と並ぶ日野市立図書館の広告塔として、もっとアピールしてほしい。 ・後継となる担当者を養成するか、他の部課に事業継続のための協力(特に人材の面で)を要請するなど、当該事業を後退させないための施策を早急に行う時期に来ているのではないかと。 	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と図書館がともに力を合わせて地域づくりを実践している取り組みが、昨年度に引き続き評価された。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日野宿発見隊独自のホームページやツイッターなどを利用しよりいっそうPRに努めるほか、人的な面での補充を工夫し、事業の拡充を図っていく。
(2)	各館での取り組み (多摩平図書館)	テーマを決めて本を展示することにより、そのテーマに関する本の利用を促進する。	<p>テーマにもよるが展示をし始めると、展示コーナーの本の回転がよくなった。「子育て」「平和関連」の利用回数を調査したところ、前年度を上回っていた。</p> <p>テーマを決めて、目立つ場所に展示することにより、利用の少なかった本の利用促進につながった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・展示が利用の掘り起こしにつながっていることは評価したい。 ・単に利用が多かった、本が動いたといった主観でとらえるだけでなく、展示の効果をテーマの分野、対象、利用状況など客観的に把握し分析検証するべき。 ・大がかりな展示だけでなく、ほんの数冊並べて手書きPOPをつけるなど、比較的簡単にできる小規模展示を数多く行うのも良いのでは。利用者への多様な働きかけが可能になる。 ・イオンモールの開業等の影響で、どのような客層が増えたかの再分析を進め、ニーズの把握を見直してみようか。 ・「ふれあい館」と共同の事業も検討してはどうか。 	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ展示が利用増への有効な方法であることは検証できた。しかし、どの程度の利用増かについては、数字で明確に示すことはできなかった。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示の効果について、客観的に検証できる方法について考える必要がある。 ・展示について、多様な方法を検討していく。
(2)	各館での取り組み (平山図書館)	本の展示の仕方を工夫する。テーマ展示や新刊展示などを積極的に行い、利用者の知識欲や興味を引き出すような取り組みを行なう。	平成26年度は11のテーマ展示を実施した。(認知症・平和・子育て支援・環境・自殺防止など他課との連携も含む)季節にあった資料、新刊も積極的に展示補充し、利用者の新たな興味を引き出した。終了後も展示してあった資料についての質問を受けたりし、手応えを感じた。	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ展示を充実して、利用者の興味を刺激し、様々な本の利用の拡大を考える活動を評価する。 ・テーマ展示の「手ごたえがあった」という部分を担当者の主観で終わらせず、客観的に内容、活用状況等を分析検証する必要がある。 ・平山城址や八王子市境に近いことを考慮した展示や資料導入ができないだろうか。 ・「ついでに寄る利用者」獲得のための積極的な働きかけを工夫ができないか。 ・「ふれあい館」との協力も検討してはどうか。 	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ展示を通し、利用拡大の手ごたえはあったが、客観的に検証する必要がある。新たなテーマ展示として、立地条件や施設の特徴を生かした展示を考えていく必要がある。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい館内の他の施設を訪れる利用者向けに、連携して出来るアピールを考え、図書館にもっと足を運びたいような仕掛けを検討する。

(2)	各館での取り組み (百草図書館)	市民の学習活動への意欲増進のため、イベント・講座等、「情報提供コーナー」の充実を図る。 ・わかりやすいレイアウトへの見直し、増設等に取り組む。	既存スペースの改善に取り組んだ。 日野市関連のものはすべて同一のラックへ、その他のものは開催場所や講座の内容によって棚を分けて配架するようにした。また、館内閲覧資料はファイルに綴じ、配布チラシはクリアファイルに入れて整理することで乱雑になることも少なく、見やすい状態を保つことができた。市民の方からも「わかりやすく、チラシが取りやすくなった」との声もいただいた。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題意識を持った職員が具体的に課題を設定し、改善に取り組んだことが、成果となって現れ、市民からも評価を得ている。各館でもその成果を共有し、全体のものにしてほしい。 ・目線や動向によレイアウトの見直しの重要性、合理性の向上を期待する。 ・市民に利用しやすいよう、情報コーナーの充実とレイアウトの見直しを評価する。 ・テーマ別展示も「情報提供コーナー」で他館を参考に検討を望む。 ・イベント・講座情報に合った図書館の資料を展示あるいは掲示するなどして、コラボレーションコーナーを作れないか。 	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配架方法を改善し、見やすくしたことなどで情報コーナーに足をとめ、チラシを手に入れられる方が増加した。実際にいただいた利用者の声からも今回の取り組みが効果的だったことが伺える。 ・常にきれいな状態を保ち、情報を提供するためには、職員全員でメンテナンスする体制作り（マニュアル等）が不可欠である。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より活用される情報コーナーとするため、更なる改善と増設を行う。また、図書展示とコラボレーションするなどの新たな取り組みも必要である。
(2)	各館での取り組み (移動図書館)	町丁別の高齢者や乳幼児人口からサービスポイントを見直し、平成21年度から平成25年度までの最高貸出数23,828冊の更新を目指す。	対象人口の多い地域には図書館施設があり、移動図書館のサービスポイントの変更は発生しなかった。 貸出は22,213冊と、前年を僅かに上回った。目標の最高貸出数の更新は出来なかったが、全体の貸出数が微減の中での増加を実現できた。	<ul style="list-style-type: none"> ・移動図書館50周年ということで、マスコミの注目度も高かった。都市部での移動図書館サービスの縮小が目立つ中、新たな可能性を広げ、全国に発信して行けるとよい。 ・移動図書館を持続させるだけでなく、利用増になったことを高く評価する。 ・微増とはいえ貸し出しが伸びたのは、移動図書館への期待・要望が多いということ。思い切って増便できないだろうか。 ・周年記念事業などの図書館のPRを移動図書館でも進めることを望む。 ・移動図書館は日野市立図書館の原点。むしろ「動く広告塔」としての活躍に期待したい。大いに活動してほしい。 ・移動図書館でも、事前にインターネットでの本の予約ができることをよりPRする必要があるのではないか。 	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用増となったことに高評価を得た。地域や年齢に関係なく、全ての市民を対象にした結果の利用増だと受け止められる。 ・移動図書館車は図書館のPRに適した素材なので、積極的な活用を望まれている。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体貸出しで保育園・幼稚園・学童クラブを巡回し、家庭の事情で本との接点の無い子供にも、通園先で接点を作る。 ・積極的にイベントへ参加し、図書館をPRする。 ・取材の成果物もPRに利用する。 ・予約制度について、ポスター等で広報を行う。 ・増便についても、どんな方策が可能か探っていく。
(2)	資料の選択・収集	より市民に役立つ資料収集を行うため、現在の選書会議のあり方を見直す。 経験の浅い職員にもわかりやすく発言しやすい選書会議を行うことを目標とする。	見直し案作成までには至らなかったが、新たな取り組みを行った。 ・選書会議での検討内容と結果を、図書館職員全体が目を通す掲示板に掲載し、会議出席者以外の職員の選書技術の向上の一助とした。	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した資料構成を評価する。 ・資料の除籍・保存についても項目を立てるべき。 ・職員がお互いに情報を共有し、選書方針や具体的な方法など、きちんと伝えていくことは、蔵書の厚みを増すためにも大事なことです。 ・若手職員の育成が必要である。 ・選書に関しては全職員が共通認識をもつことが基本。「掲示板掲載」の大いなる活用を期待したい。さらに、判断に迷ったもの、出版の動向、選書の際に問題になったこと、話題にしたことなども全員が共通認識をもてるような方法はないか。 ・図書の廃棄・保存のルールも検討すべき。CDなどの補充も必要。 ・若い職員にテーマ展示を任せることで、若手職員の選書技術の向上に資することができるのではないだろうか。 	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選書会議で検討したことを記録し、全体に発信したことは、職員全体が選書について共通認識を持つことに役立った。 ・選書技術を伝達するために、さらなる工夫が必要である。 ・資料の保存・廃棄についての検討も望まれている。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選書会議の検討結果にとどまらず、日常業務で話題になったことも記録していくことで、新入職員の研修や収書方針の改定に役立てる。 ・「保存書庫の維持について」（最終改定2010年）の見直しを行なう。

(2)	予約・リクエスト・相互貸借	リクエストの資料については、購入や借用をして、希望の資料をすべて提供する。	平成26年度は、442,742冊のリクエスト資料を提供した。その内、都立や他の市区町村図書館等から9,495冊を借用した。リクエスト資料のうち、315冊は提供できなかった。 翌年度はリクエスト全てを提供できるよう、更なる検討が必要となる。	<ul style="list-style-type: none"> ・何らかの理由で提供できないリクエストに対しては、代替え図書の提供など、一歩進めたサービスはどうか。 ・リクエスト内容の分析を行うことで更なるサービス向上対策を考えられないか。 ・リクエストで購入したもの、購入できるけれど借用したもの、提供できなかったものを分析して、資料の選択・収集担当と検討するような場が選択会議以外でできないだろうか。 ・期限超過利用者への返却の督促は、本を汚さないよう注意を促す活動と同様に遠慮せず取り組んでほしい。 ・資料提供不可能だった事例の検討を行ない、資料収集の際の検討材料として反映することが肝要である。 	<p>【分析】</p> <p>資料提供率、約99パーセントは、日野市で提供しないとする図書（マンガ等）を鑑みた上で、ほぼ限界に近い数値と考える。</p> <p>【改善策】</p> <p>今年度も、提供率の維持に努めるとともに、提供できないリクエストに対する代替え図書の提供等のサービスについて検討する。</p>
(2)	レファレンスサービス	新たにオンラインデータベースを導入し、市民へ提供する情報サービスを拡充する。また、データベースの利用を促すためPRを工夫する。	市立図書館全館において、国立国会図書館が所蔵するデジタル化した資料の閲覧や歴史的音源を聞けるようになり、情報サービスの提供の拡充ができた。 PRについては、館内掲示の他「日野ニュース」「都政新報」「日野浅川通信」に記事が掲載され、来館する利用者への利用促進が図れた。	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなレファレンス・ツールの充実を評価する。 ・「図書館には、そんなものも・・・！」と、図書館になじみのうすい一般市民にとって、図書館観の変革につながる。 ・オンラインデータベースでどのようなサービスが使えるのか、という周知がまだ途上であるように見受けられる。また、オンラインデータベース用パソコンの存在感がまだ薄いように感じる。 ・「宝の持ちぐさ」にならないよう、様々の機会・媒体でPRを。 	<p>【分析】</p> <p>オンラインデータベースやデジタル化資料について、ホームページや図書館報「ひろば」以外の媒体でもPRを行ったが、利用につながるPRは不十分である。特にレファレンスサービスについて具体的な内容が周知できていない。</p> <p>【改善策】</p> <p>・継続してPRするが、レファレンスサービスの内容を具体化してPRする。</p>
(4)	地域・行政資料（市政図書室）	日野市役所刊行物の確実な収集	「行政資料、地域資料の収集と管理に関する要綱（案）」を2月に作成した。 年度末までに案に基づいた十分な検討ができなかったため、要綱による納本制度が確立できず、庁内刊行物の確実な収集には至らなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・「要綱（案）」の作成は一歩前進、これを基に納本制度の確立に向けて進んでほしい。 ・庁内刊行物の確実な収集と市民への提供は引き続き取り組んでほしい。 ・各部署で資料の扱いについて差があると思われる。そのなかで、利用者の主なニーズを明らかにしたうえで、市政図書館に収集されるべき資料とはどのようなものなのかという定義やビジョンをはっきりさせることからスタートしてみてもどうか。 ・地域・行政資料だけでなく、図書資料全体の保管スペースの拡充を望む。 	<p>【分析】</p> <p>市刊行物を市政図書室で集中管理することは、市政運営上のメリットのみならず、市民の利用、情報提供面でも有用な施策である。</p> <p>・要綱だけでなく、収集対象とする刊行物の種類・形態・冊数等を具体化することが必要である。</p> <p>【改善策】</p> <p>・要綱作成と同時進行で、納本の対象とする刊行物のガイドラインを作成する。</p> <p>・納本された刊行物を保存するスペースの確保と現在使用している3か所の書庫の機能分担及び保存資料の整理を進める。</p>

サービス実績

			平成24年度	平成25年度	平成26年度
蔵書数(図書)	成人		621,366	626,117	628,948
	児童		156,729	162,508	167,084
	合計		778,095	788,625	796,032
受入数(図書)	成人		27,301	26,336	27,246
	児童		8,341	10,572	10,114
	合計		35,642	36,908	37,360
視聴覚資料	保有数		5,191	5,232	5,511
	受入数		272	350	329
購入雑誌	タイトル数		506	500	505
利用登録者(年度中に1回以上利用した者)	成人		33,904	33,200	32,697
	児童(0~15歳未満)		5,679	5,631	5,270
	合計		39,583	38,831	37,967
個人貸出数	成人図書・雑誌		1,221,158	1,171,281	1,151,215
	児童図書・雑誌		479,398	461,493	463,649
	CD・ビデオ		17,406	15,822	17,067
	合計		1,717,962	1,648,596	1,631,931
移動図書館による団体貸出(雑誌・CDを含む)	団体数		48	50	51
	貸出冊数		20,339	21,299	21,422
図書等の予約受付(雑誌・CDを含む)	受付件数		466,179	427,286	442,742
学級文庫への配本	貸出冊数		—	2,011	7,151
幼稚園・保育園・子育て関連施設への配本	貸出冊数		2,780	2,890	2,945
ヤングスタッフ	スタッフ	人数	24	12	10
	ブックパレード	開催数	1	4	1
障害者サービス	利用登録者	個人	154	171	173
		団体	7	8	8
	対面朗読	件数	178	176	212
	音訳・点字訳図書貸出	タイトル数	3,450	3,172	4,750
文献調査	件数		3,211	3,396	3,768

日野市立図書館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日

(目的)

第1条 この要綱は、図書館法（昭和25年法律第118号）第7条の3に規定する、図書館の運営の状況に関する評価等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市立図書館（以下「図書館」という。）は、毎年1回、図書館の運営状況について評価を行う。

(評価の方法)

第3条 図書館は、図書館協議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

(教育委員会への報告書の提出)

第4条 図書館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 図書館は、評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 図書館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第7条 評価に関する庶務は、図書館庶務整理係において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、図書館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

《図書館協議会委員名簿》

委員長	大杉 宏光	社会教育の関係者
副委員長	紺野 順子	学識経験者
委員	田中 ヒロ	社会教育の関係者
委員	阪田 幸子	学校教育の関係者
委員	高橋 清吾	学校教育の関係者
委員	飯田 二美子	家庭教育の向上に資する活動を行う者
委員	岩本 和博	公募による市民
委員	木藤 創太	公募による市民
委員	田中 正昭	公募による市民

任期 自 平成26年4月15日
至 平成28年4月14日

平成 27 年度 日野市立図書館の
運営の状況に関する評価書

(平成 26 年度事業)

くらしの中に図書館を

—市民に役立ち、共に歩む図書館—

平成 27 年 10 月

日野市立図書館

〒191-0053 東京都日野市豊田 2-49-2

電話 042-586-0584